

PRESS RELEASE 2015年1月

清里フォトアートミュージアム (K・MoPA)

展覧会開催のお知らせ

2014年度ヤング・ポートフォリオ

Young Portfolio Acquisitions 2014

K・MoPA  
開館20周年

選考委員：森山大道、瀬戸正人、細江英公(館長)



ジュリオ・ビッテンクール (Julio BITTENCOURT / ブラジル、1980) *Ramos 13, 2009* (全5点収蔵)

#### 開催概要

展覧会名：2014年度ヤング・ポートフォリオ

会期：2015年3月21日(土・祝)～6月21日(日)

休館日：毎週火曜日(4/28、5/5は開館)、3月20日(金)までは冬期休館

会場：清里フォトアートミュージアム

開館時間：10：00～18：00 (入館は閉館30分前まで)

入館料： 一般 800円 (600円) 学生 600円 (400円)

中・高生 400円 (200円) 友の会・会員 無料

( ) 内は20名様以上の団体料金 家族割引 1200円 (2名以上～6名様まで)

交通のご案内 車にて：中央自動車道須玉I.C.または長坂I.C.より車で約20分

J R：中央本線小淵沢駅にて小海線乗り換え 清里駅下車、車で約10分

## ヤング・ポートフォリオ(YP)=世界の写真家の原点

清里フォトアートミュージアム（館長：細江英公）は、写真と写真家のために生きる美術館です。

「ヤング・ポートフォリオ」は、写真を通して世界の若者を育てる文化支援で、1995年の開館より継続しています。

この活動が若者のチャレンジの場となり、写真家の原点を永遠に伝え、若者と写真の未来を拓くことを願っております。

### ①世界の若者の、創造性に富んだ力作を、35歳まで何度でも公募し、成長を見守ります。

世に埋もれがちな世界の若い才能を発見し、励まして行きたいと考えます。美術館に作品が収蔵されることは、写真家としての実績となり、勇気と誇りを与えます。

一度きりのコンテストではなく、継続して実績を積むことができます。

### ②作家一人ひとりの個性を重んじ、ポートフォリオ（作品集）を購入・展示、活動を応援します。

報道写真・芸術写真など特定のジャンルやスタイルに限定せず、写真家の個性を尊重します。

作家の世界観や芸術性を表現するポートフォリオとなるように、毎回複数の写真を選考します。

写真家の散逸しがちな初期作品を保存することができると思います。

### ③若者の才能の真価を世に問い、美術館の収蔵作品として後世に伝える、世界で唯一の企画です。

作品選考は、日本を代表する写真家に委嘱します。毎年、館長と選考委員2人が、若い才能に未来を託す思いで選考し、全員が合意した作品を購入します。

収蔵作品全体から、世界のさまざまな国民性・芸術性などの多様性を俯瞰することができます。また写真の変化や文化の推移などの歴史的記録ともなるでしょう。

海外に門戸を開いた日本発の企画としても先駆的で、その国際性と実績が、国内外から高い評価を得ております。

（2004年 日本写真協会 文化振興賞受賞）

## ■2014年度ヤング・ポートフォリオ（第20回）データ

選考委員：森山大道、瀬戸正人、細江英公（館長）

作品募集期間：2014年4月15日～5月15日

応募者数：275人（世界32カ国より）

応募点数：6035点

購入者数：36人（国内16人・海外20人）

購入点数：168点（全作品を展示いたします）

●1995年度から2014年度までに作品を収蔵した作家の総数：723人（45カ国）

総作品点数：5460点

### 同時展示

●選考委員の初期作品 森山大道・瀬戸正人・細江英公

●YPOB（卒業生）作品 野口里佳・元田敬三・石塚元太良

YPを35歳で“卒業”した後も、活動を継続している作家たちは、どのような作品を手がけ、どのような発展を遂げているのか。その視点で当館が新たに収蔵した3人の“YPOB”作品もご覧いただけます。本展では、YP収蔵作品とYP後の作品を同時にご覧いただくことができます。

●野口里佳（1971） ●元田敬三（1971） ●石塚元太良（1977）

YPOB

## ■本展覧会について

「若い人はいろんな意味で過剰だよな。」

選考委員・森山大道氏は、若い作家の写真の魅力について、このように語りました。「ここまでやるのかと、おまえら、というしぶとさとインパクトを感じ、瞬間的に嫉妬した。自分のことを考えても、若い時は、得体の知れない欲望が過剰だった。（若い人は）その過剰の中からモノを作っていけるんだよな。」また、選考委員・瀬戸正人氏は、「若い故に完成していない。しなくて良い。していない写真が魅力的で、未来を感じる。」と表現しています。

今を生きる若者が、どのようにこの世界を、時代を、そして自分自身を見つめているのか。みずみずしい眼差しとユニークな写真表現をお楽しみいただければと思います。



写真左から）瀬戸正人氏、森山大道氏、細江英公館長



YPは、世界の若いクリエイターからチャレンジを受ける場でありたい、そして若木が伸びゆくために強い根を育む場となりたいたいと願っています。

## ■2014年度YPの見どころ

### ●ウクライナそして旧ソ連の現在

2014年2月、キエフで起こった抗議行動をご記憶の方も多いと思います。その紛争を撮影したセルゲイ・レベディンスキー（ウクライナ）の《ユーロマイダン（ユーロ広場）》と《アラバト・スピット》の2シリーズが収蔵となりました。クーデターを起こそうとした極右勢力や反政府グループが広場を埋め尽くしていましたが、レベディンスキーが捉えたかったことは、何万、何千ものウクライナ人が“夜明け”を待ち望んでいるという事実だったのです。《アラバト・スピット》は、ウクライナ南部の温泉地。温泉とそれが混じった泥による湯治場で、ウクライナとロシアの人々に愛されています。ソ連の崩壊にともない廃れたこの温泉地が、この20年の間に過去のにぎわいを取り戻しつつあるとのこと。作品に使用されている印画紙は、旧ソ連製のもの（1990年製造中止）です。リス・プリントという技法で作ると、まったく予測のつかない結果を得られるとのこと。一枚一枚が“記録”として画像が立ち表れている緊張感を感じます。（全14点）



一方、ロシア在住の桑島生（くわしま・いくる）は、7年にわたり、旧ソ連圏を中心に撮影しています。多くの人にとって未知の広大な土地、ユーラシア。そこでは時計の針が止まり、あるいは逆回りしているような錯覚や、幻想と現実が交わるような感覚を覚えると言います。カザフスタンやトルクメニスタンにて、その印象を伝えるためにパノラマでの撮影を取り入れています。（全8点）



作品上から）

セルゲイ・レベディンスキー

《無題、シリーズ「アラバト・スピット」より》2011

《無題、シリーズ「ユーロマイダン」より》2014

桑島生《祈り》2012

桑島生《バルハシ湖》2011

### ●「根虫」と「Tokyo Parrots」

三善チヒロの作品《根虫》は、多くの作品の中でもひととき異彩を放っています。作品の背景にあるのは、東日本大震災以降、放射能に土地が汚染されたとしても、植物は適応し、生命は永遠に繋がって行くということ。作家は、生命体としての植物とその遺伝子、その姿を撮影し「根虫」（こんちゅう）と呼んでいます。これらの写真の中には、人間と自然、過去と未来、いのちの有り様 — 作家の持つさまざまな世界観が凝縮しているのです。（全4点）以下作家によるステートメントをご紹介します。



放射性物質であるプルトニウム239の効果が  
一千分の一に減るまでにかかる時間は、およそ24万年。  
24万年もの間、汚染された地域から  
植物は人間のように逃げることも出来ない。  
遺伝子を破壊され、姿を変えられた植物はどのようになっていくだろう。  
24万年後の植物は土中を這い出て進化をするのである。  
植物の最も身近にいる昆虫を倣い、細かな根を手足にして葉を羽根にし、  
かつて過ぎた豊かで美しい土地を目指すのである。

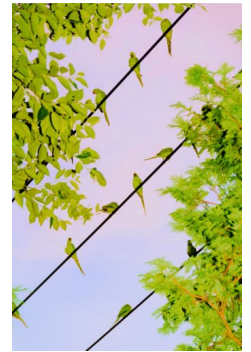
私は実際に24万年後の植物たちに出会い、その姿を撮影したのだ。  
植物は、この土地を離れなければならなかった。  
これは、ただそれだけの写真なのである。

作品上）三善チヒロ《根虫 #Polygonum longisetum》2011 下）《根虫 #Amaranthus viridis》2011  
タイトル中の学名はそれぞれイヌタデとホナガイビユ

水谷吉法の作品《Tokyo Parrots》。タイトル通り被写体となっているのは、熱帯雨林ではなく、東京都内のインコです。作家が住む世田谷区にも野生化したインコの群れがおり、「数百羽の大群を見たとき、ヒッチコック監督の映画『鳥』の中に迷い込んだような感覚に陥り、とてつもない恐怖に襲われた」とのこと。水谷が選んだ撮影場所は、都内最大のねぐらとなっている目黒区大岡山の東京工業大学キャンパス内。東京にいるはずのないインコの異様な風景を捉えるべく約1年間撮影を続けたそうです。（全4点）

作品右) 水谷吉法《Tokyo Parrots》2013

作品左) 水谷吉法《Tokyo Parrots》2013



### ●バングラデシュ・パワー!!

バングラデシュは、1947年にパキスタンから独立した国で、インドの東側に位置しています。首都はダッカ。面積は日本の約4割、人口は約1億5千万、イスラム教徒が9割、主要な産業は衣料品・縫製品産業と農業です。

2013年4月にダッカ近郊の8階建ての商業ビルが崩壊し、ビル内に入っていた多くの縫製工場の労働者が犠牲になったニュースをご記憶の方も多いと思います。衣料品に限らず、バングラデシュの劣悪な労働環境や安価な労働力に依存している状態、そして人口過密は大きな問題となっています。

一方でバングラデシュでは、アジアでも最も長い歴史を持つ現代美術の国際展を開催するなど、アートへの関心の高い国でもあります。写真についても、国際的な写真フェスティバル「チョビ・メラ」(Chobi Mela)がアジアの他国に先駆けて2000年から2年に1度開催されています。約30カ国からアーティストが参加する展覧会の他、ワークショップ、ポートフォリオ・レビュー、カンファレンス、セミナーなどが行われます。そのフェスティバルのディレクターである写真家のシャヒドウル・アラム氏は、化学者としての経歴を持ち、写真家として国際的な賞を多数受賞してきたバングラデシュ写真界のリーダー。アラム氏の牽引のもと、バングラデシュの若い写真家たちは、ひたむきに自国の現状を見つめ、競うように写真表現を追求しているのです。

ヤング・ポートフォリオには、これまでもバングラデシュから多数の応募が寄せられ、2014年度は7人のバングラデシュ写真家の作品が選ばれました。毎年、選考委員の目を釘付けにするバングラデシュの作家たち。2013年度に引き続き2年目の選考委員・瀬戸正人氏は、「年々バングラデシュの人のパワーが強くなりますね。去年と今年ずっと(バングラデシュの写真を見ていて、日本もかつてそうだったように、発展途上国で、混沌としている国は写真を撮らせる勢いというか、平和な日本で忘れかけていることを思い出させてくれる。」とコメントしています。またカレド・ハサン(右下)の作品について選考委員・森山大道氏は「全体にローキー(\*)でぬめっとした感じが、ひとつの世界を作っている。」と、作家がこだわった技術面も高く評価しています。

\*意図的に露出を低く撮影し、暗く仕上げた写真。

作品上から)

K.M.アサド《リスクに曝される世代》2013

プローバル・ラシッド《工場でレンガを運ぶ労働者、ダッカ、バングラデシュ》2014

ブラシャント・クマール・サハ《壁紙》2013

カレド・ハサン《ダッカ。私の夢。都会は誰の家になるのか。誰の夢であったか。誰が住むのか。》2013



### ●今年でYPを“卒業”する作家たち

ヤング・ポートフォリオ（以下YP）が、通常のコンテストと異なる大きな特徴は、35歳になるまで何度でも応募することができ、何年にもわたって収蔵することが可能だということです。本展でも、今年で35歳となる作家の、2014年度の収蔵作品と過去の収蔵作品を併せて展示いたします。今年35歳（1979年生まれ）でヤング・ポートフォリオを“卒業”となるのは、**下菌詠子**、**田福敏史**、**グローバル・ラシッド（バングラデシュ）**の3人です。

作品左上下)

下菌詠子《同世代》1998（1998年度YP収蔵）

下菌詠子《あふるる（1）》2014（2014年度YP収蔵）

作品右上下)

田福敏史《さよならリアル・ワールド》2006（2009年度YP収蔵）

田福敏史《光あるうちに》2011（2014年度YP収蔵）



### ●山梨県・長野県ゆかりの作家

2014年度YPにおいて作品を収蔵した山梨ゆかりの作家、高島空太と長野県出身の山口雄太郎をご紹介します。

高島空太は、1988年東京都生まれ。北杜高校から、山梨大学教育人間科学部生涯学習過程芸術運営コースを卒業。2011年からフリーランスとして活動しています。

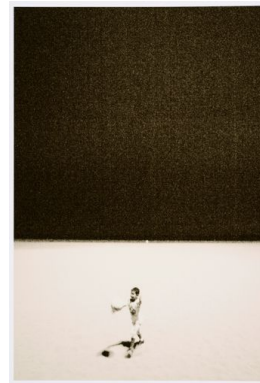
選考委員・森山大道氏は「一枚一枚のイメージの作り方が微妙に違って、独特の世界観を持っているところが良い」とコメント。

2012年には、作品《ざわつき》が、キヤノン写真新世紀に佳作入賞し、今後の活躍が期待される作家です。

作品上2枚)

高島空太《ざわつき》2012

高島空太《ざわつき》2010

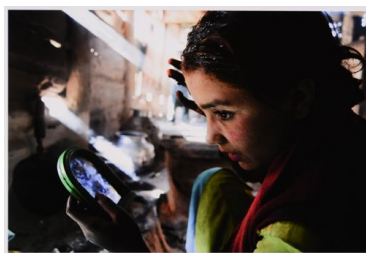


山口雄太郎は、1987年長野県千曲市戸倉上山田に生まれ、2011年神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科卒業後、フリーランスとして活動しています。2010年には、ナショナルジオグラフィック国際写真コンテスト風景部門で優秀賞を受賞しています。《カシミールの家で》と《ドービガート》は、2009年にインドを訪れた際に撮影した作品です。選考委員・瀬戸正人氏からは「日本人が撮影したと思えない。かなり深く人間関係を作って撮っているように見える」などと高く評価されました。

作品下2枚)

山口雄太郎《カシミールの家で》2009

山口雄太郎《ドービガート》2009



### ■2014年度ヤング・ポートフォリオ（第20回）作品購入作家

★は過去にもヤング・ポートフォリオで作品を収蔵した作家。全36人のうち、11人は過去にも作品を収蔵しています。

- 1 ■A.M.アハド(バングラデシュ、1989) A.M. AHAD
- 2 ■アオ・ヨンフー(中国/マカオ、1992)(歐陽富) AO leong Fu
- 3 ■K.M.アサド(バングラデシュ、1983) K. M. ASAD ★
- 4 ■フリオ・ビットンクール(ブラジル、1980) Julio BITTENCOURT
- 5 ■チョン・コクユウ(マレーシア、1988) CHONG Kok Yew

- 6 ■田 凱(中国、1984) DEN Gai
- 7 ■榎本祐典(日本、1986) ENOMOTO Yusuke
- 8 ■桑島 生(日本、1984) KUWAJIMA Ikuru★
- 9 ■カレド・ハサン(バングラデシュ、1981)Khaled HASAN★
- 10■ムーチェン・ホー(台湾、1987)(何沐恬) Mu-Tien HO
- 11■シャハダット・ホサイン(バングラデシュ、1981) Shahadat HOSSAIN
- 12■石倉徳弘(日本、1984) ISHIKURA Tokuhiko★
- 13■ムハマド・シャイフル・イスラム(バングラデシュ、1989)Muhammed Shaiful ISLAM
- 14■木村 肇(日本、1982) KIMURA Hajime ★
- 15■セルゲイ・レベディンスキー(ウクライナ、1982) Sergiy LEBEDYNSKY
- 16■ダニエル・イ(韓国、1981) Daniel LEE
- 17■李 東雄(韓国、1988) LEE Dongwoong
- 18■ルナ(韓国、1989) Luna
- 19■松井泰憲(日本、1980) MATSUI Yasunori
- 20■三善チヒロ(日本、1990) MIYOSHI Chihiro
- 21■水谷吉法(日本、1987) MIZUTANI Yoshinori
- 22■ないとう ようこ(日本、1983) NAITO Yoko
- 23■プラシャント・クマール・サハ(バングラデシュ、1983) PRASHANTA Kumar Saha★
- 24■プロバル・ラシッド(バングラデシュ、1979) Probal RASHID★
- 25■ジュリア・スミルノヴァ(ロシア/ドイツ、1981) Julia SMIRNOVA
- 26■下園詠子(日本、1979) SHIMOZONO Eiko ★
- 27■杉山裕康(日本、1981) SUGIYAMA Hiroyasu
- 28■田福敏史(日本、1979) TAFUKU Toshifumi ★
- 29■平良博義(日本、1987) TAIRA Hiroyoshi
- 30■高島空太(日本、1988) TAKASHIMA Kuta
- 31■ヤン・ヴァラ(チェコ、1983) Jan VALA★
- 32■セヴェリン・ヴォーグル(ドイツ、1982) Severin VOGL
- 33■渡邊遊可(日本、1983) WATANABE Youka
- 34■山口雄太郎(日本、1987) YAMAGUCHI Yutaro
- 35■山路雅央(日本、1987) YAMAJI Masaou
- 36■ピョートル・ズビエルスキ(ポーランド、1987)Piotr ZBIERSKI ★

### YP作品 の巡回

2014年は8月に東京都写真美術館にてヤング・ポートフォリオ収蔵作品展「原点を、永遠に。」を開催し、約500点を展示いたしました。2015年は、4月4日から一ヶ月間、日本外国特派員協会(Foreign Correspondents' Club of Japan)にてヤング・ポートフォリオ作品約20点を展示いたします。

会期：4月4日(土)～5月8日(金)

会場：日本外国特派員協会(東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル20F)

### YP Database

### YPデータベース公開中

作品のデータのほか、作家の略歴、作品についてのアーティスト・ステートメントも掲載しています。作家名、収蔵年、国籍などで検索することができます。過去20年にわたる世界の若手写真家の作品を、様々な調査・研究の対象としてご利用頂ければ幸いです。 [www.kmopa.com](http://www.kmopa.com) ▶ YP ▶ YPデータベース

### YPLレセプション&ギャラリートーク

#### ●5月23日(土) 午後2時～4時(予定)

講評：森山大道、瀬戸正人、細江英公(館長)

(入館料のみ / 定員なし \*友の会・会員は無料)

会場：清里フォトアートミュージアム 要予約

本年度作品を収蔵した作家にKMOPA永久保存証書を授与した後、作家によるギャラリートークと同時に3人の選考委員による講評を行います。どなたでもご参加いただけます。

(写真：昨年「2013年度ヤング・ポートフォリオ」展にてギャラリートークを行う坂口真理子)



開館  
20周年  
特別企画

## 写真による社会貢献の顕彰

K・MoPAは、創立の目的である「写真を通して社会と文化に貢献する」活動を具現化するために写真家・井津建郎氏が創立したアジアの小児病院プロジェクトへの支援（2000年～）、東日本大震災被災地、被災者へのサポートなどを行ってまいりました。



20周年記念にあたる本年は、2013年度YP購入作家・楊哲一（YANG Che-Yi 台湾、1981）が、ライフワークとして行っているプロジェクト「童話」を、写真による優れた社会貢献として顕彰することいたしました。

「童話」は、楊（ヤン）が中心となり、台湾の辺境に住む貧しい子どもたちの教育のために中古カメラの寄付を呼びかけ、彼らに写真を教えて、作品を発表する活動です。

5歳からバドミントンの英才教育を受けた異色の経歴をもつ楊は、複雑な家庭の事情、それに伴う移住など、自らが幼少期に得た心の傷をきっかけに、次第に子どもの教育に関心を寄せるようになりました。現在は、撮影や自身の作品の販売のほか、バドミントンの指導と用具の販売で得た収益を「童話」に振り向けています。当館は、楊のダイナミックな作品と、心ある活動の両面に注目し、この度のYPレセプションにて顕彰いたします。詳細は、追ってHPにて発表いたします。



写真上) 楊哲一《山水(六)》2008 (2013年度YP取蔵)

写真下) 楊哲一(中心)と台湾の子どもたち

会期中の  
イベント

## 「K・MoPAで星をみる会」

テレビ・ラジオでお馴染み、国立天文台の縣秀彦先生を講師にお迎えし、天体の不思議を、初めての方にもわかりやすく解説いただきます。雨天・曇天でも映像&レクチャーをお楽しみいただけます。

- 日時:4月25日(土)午後6時30分～8時
- 参加料:1000円 要予約
- 講師:縣 秀彦(あがたひでひこ)

自然科学研究機構国立天文台 天文情報センター 准教授、総合研究大学院大学准教授を兼務  
NHKラジオ深夜便 第二週土曜日レギュラー

<http://jhouhoukoukai.nao.ac.jp/reslist/res.aspx?ID=47>

YP2015  
作品募集

## 2015年度ヤング・ポートフォリオ

今できる限りのものを見せてほしい。

今の挑戦が未来のあなたを強くする。

2015年度選考委員：森山大道、北島敬三、細江英公(館長)

- Web登録受付期間 & 応募作品受付期間：2015年4月15日～5月15日
- 応募要項の概要・応募資格は35歳までを上限とします。(1980年1月1日以降に生まれた方)
  - ・35歳までは何度でも応募が可能です。
  - ・既発表・未発表を問いません。他のコンテストへの応募作品・受賞作品も応募可能です。
  - ・作品の表現、技法は問いませんが、永久コレクションのため、長期保存が可能な技法であること。
  - ・選考された作品は、1点につき3万円以上で購入します。
- 詳しい応募要項は：<http://yp.kmopa.org/>

K・MoPA開館  
20周年記念展

## 「未来への遺産：写真報道の理念に捧ぐ」

会期：2015年7月1日（水）～9月30日（水）

■出品作品数：約170点

内容：2014年8月のK・MoPA開館20周年記念展「原点を、永遠に。」に引き続き、2015年7月より、20周年記念展を開催いたします。

この展覧会は、写真家ロバート・キャパの実弟であり写真家のコーネル・キャパが、6人の写真家の作品によって構成した展覧会「コンサーンド・フォトグラファー」(The Concerned Photographer)で、1967年にニューヨークにて行われた展覧会です。コーネル・キャパは、自らの世界と時代に真剣に関わりあいをもとうとする写真家を「コンサーンド・フォトグラファー」と呼びました。そして、その理念とプロフェッショナルな水準を持って人間の問題と取り組む写真活動を後援し、埋もれた貴重な記録を発掘、保存し、一般に公開しました。K・MoPAでは、この貴重な作品群をほぼ全点収蔵しています。開館20周年にあたる本年、これらの作品を一堂に展示することが、次世代を担う、未来の“コンサーンド・フォトグラファー”への貢献となれば幸いです。



写真左から)

ロバート・キャパ 《スペイン、1936》

レナード・フリード 《ハーレム、1967》

アンドレ・ケルテス 《マгда パリ、1926》

### ●展示作家

ロバート・キャパ (ハンガリー、アメリカ、1913-1954)

アンドレ・ケルテス (ハンガリー、アメリカ、1894-1985)

デイヴィッド・シーモア (ポーランド、1911-1956)

ダン・ワイナー (アメリカ、1919-1959)

レナード・フリード (アメリカ、1929-2006)

ワーナー・ビシヨフ (スイス、1916-1954)

お問い合わせ

●掲載用画像データについては、事務長・小川、広報・前島までお願いいたします。

[ogawa@kmopa.com](mailto:ogawa@kmopa.com) Tel:0551-48-5598

●ホームページ <http://www.kmopa.com>

ツイッター <https://www.twitter.com/kmopa>

facebook <https://www.facebook.com/kmopa>

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545-1222 清里フォトアートミュージアム

Tel: 0551-48-5599 (代表) Fax: 0551-48-5445 [info@kmopa.com](mailto:info@kmopa.com)